

子ども会議プログラムプロジェクトチームと子ども委員会のこれまでの歩み

2010.12

市民委員会立ち上げ

条例についての話し合い

子どもの主体を大切にしていこう！

子どもが権利条例づくりに参画するのはあたりまえ

2011.8

子ども会議プログラム作成
プロジェクト会議

市民委員会
チーム会議

子どもが決める

子どもの声を権利条例に！

- ・班きめ、係りきめ
- ・クラス目標きめ
- ・お菓子買いなど...

子どもたちが主体的に話し合う場を...

- ・子どもの声を条例に生かしたい
- ・つくる過程を大切にしたい

子どもたちが主体的に会議をすすめる

子ども委員会説明会(2012.3)

各団体活動や、中学校の生徒会、自主活動を行う子どもたちに呼びかける

子ども委員会スタート

2012.4

子ども委員会

子ども委員会 (大人の話し合い)

第1回～第7回

- ・子ども委員会のあり方、意義について話し合う
- ・自分たちの思いは守られているか
- ・子どもの主体って？
- ・子ども委員会合宿に向けて(ポスター、食事など)

- 子どもの権利条例に向けた話し合い
- 子ども委員同士の関係づくり
- 子ども委員会の周知

- ・子ども委員会で話されたことを、大人同士でも話し合う
- ・大人の中にある権利意識、差別意識、子どもへのかかわり方を考える

大人(親)の課題って？

2012.8 子ども委員会 合宿

第8回～第12回

- ・自分にとっての安心って？
- ・友達って？
- ・相互尊重って何？
- ・人との関係性について考える
- ・当たり前って？
- ・自分の意見思いはきいてもらえるか？
- ・今、私が思うことは？

- ★食事のメニュー決め、ご飯作り
- ★自分たちの思い、考え、周りとの関わりについて話し合う。(手作り人生ゲーム)

- ・何気ない大人の行動が子どもの主体を奪っているのでは？
- ・子どもをありのまま受け入れるって？

子どもの主体的な活動をめざして

私(子ども)の思いって大切にされているの？

津市1万人の子どもの声アンケートと県のアンケートから

- ・子どもの思いと大人の思いとのズレについて考える
- ・大人の思い込みがあるのでは？
- ・子どもアンケートにあらわれない部分があるのでは？

第13回～

自分たちの思いを子どもの権利条約(条例)にあてはめると...

2013.3 報告会

- ★自分たちの思いを意見表明
- ★報告会や報告冊子にて

津市子どもの権利条例づくりへ

子ども委員会(大人の話し合い)

津市の 21,053 件の『子どもの声アンケート』の子どもの回答と、県が実施した『みえの子ども白書』アンケートの保護者の回答とをくらべて、子どもと大人の意識の違い（ズレ）を話し合いました。

私たちは、子どもの思い、気持と保護者の思い、気持に意識の違いを感じ、大人が本当に子どものことを観ているのか、分かっているのか、見守っているのかを話し合いました。

そして今、私たちは、大人の目線ではなく、子どもの側からみた「子どもの権利条例づくり」の必要性を感じています。

※みえの子ども白書（平成 24 年 3 月三重県発行）。

子どものあいのままを認めていますか？

- ・子どもが「自分のことが好き」と思っている小学校 5 年生の保護者 54%に対し、小学校高学年は 27.6%で保護者と子どもの間に 26.4%の開きがある。
また、中学校 2 年生の保護者 38.4%に対し、中学生は 14.3%で保護者と子どもの間に 24.1%の開きがある。
- ・保護者と子どもの感じ方の開きは、保護者が子どもの言動や毎日の生活（友達、クラブ、学校の様子）をみて、「楽しくやっているだろう」「満足しているだろう」「自分のことが好きだろう」という願望も含め、きっと子どももそう思っているだろうという思い込みがうかがわれる。
- ・保護者は子どもの気持ちを聴いたり、知ろうとしているだろうか？子どものありのままの姿を見たり、認めているだろうか？
また、保護者もありのままの自分を出せているだろうか？

大人は本当に子どもを大切にしているのだろうか？

- ・「思う」48.7%、「まあまあ思う」38.6%を合わせると 87.3%の子どもが大切にされていると思っている。自由記述をみると「ごはんを作ってくれる」がすべての年齢で見られ、塾への送り迎えなどを含めた「世話をされる」ことが大切にされていると思っているようだ。しかし、ごはんを作ってもらったり、世話をされることは、子どもにとっては当たり前であり、それが大切にされていることなのだろうか。それに対し、大人は 94.8%が大切にしていると回答している。大人の側も「～してやっている」のお世話型が自分のエゴかもしれないのに大切にしていると思っているのではないか。世話をしたり、物を買ってあげた

りに代表されることだけではなく、子どもの存在そのものを受け止め、向き合うことこそが大切であるのにそこに思いが至っているのだろうか？大切にされていると「思わない」「あまり思わない」が10%あり、大人との意識のズレがそんなところに表われているのではないかと思われる。

子どもに安心できる居場所はあるのだろうか

- ・子どもたちは年代に関わらず居場所があると答え(89.4%)、1位に自分の家をあげている。大人も家を1位にあげている(94.5%)が子どもとの差が出ている。これは子どものほっとする場所は、自分の家であるのが当然であるという大人の意識、またあってほしいという願望の表れではないだろうか？
- ・自分の家の他に子どもたちは祖父母や友だちの家、学校、習い事の場所をあげている。大人は祖父母の家や学校などに対しては子どもより高い数字を掲げているが、友だちの家に関しては子どもより数字が低くなっている。友だちの家を居場所にしてほしくない大人の気持ちの表れのように感じられる。
- ・「居場所がない」と答える子どもが8.9%いる。逆に子どもに居場所がないと思っている大人は0.1%にすぎない。大人は居場所がないと思っていないことがわかる。子どものどこにも安心できる場所がないという訴えと大人との認識のずれが大きくある。

子どもたちは本当に見守り応援されているのか？

- ・子どもの回答で「応援してくれる人がいる⇒約82%」となっている。しかし、その支援者は誰か自由記述を見てみるとスポーツ少年団などでの練習や試合の応援をしてくれる人や習い事のコーチなどを含み、さらに、「ネット上の友だち」「多分いるような気がする」「ペットのネコ」などもあげていた。子どもの答えた「82%」を、そのまま楽観的に受け入れることはできない。
- ・保護者の回答をみると「子どもの育ちを応援していると思う+どちらかといえば思う⇒約94%」となっている。また、否定的な回答では、「応援してくれる人がいない子ども⇒約14%」「育ちを応援していない+分からない保護者⇒約5%」となっている。ここでも、子どもと10%程の差がみられることから、保護者は自分の子どもに対して十分に支援者としての役割を果たしているとしている。
- ・保護者の考える応援や見守りとは、どんなことをいっているのだろうか？

中学生の本音

～子ども委員会のみんなの話し～



うちだって、言いたいことか
げたいことがある。

もっと、子どもその言葉を聞いて
ほしい。大人の言葉が"本当とは
かき"らないから。

平澤



子どもだって
言いたいことがある

子どもにも権利があるはず
だけど今の社会ではあまり
言うことができていないと思う。

子どもにだって不満や意見があ
それを表現するのにかこの子ども
権利条例があるし僕は思います。

稲垣 郁也



第9条 お父さんお母さんとは、いっしょにくらすのは

お父さんとお母さんとはなれにくらすのは、いやだ！
おやのいっしょにくらすと、ストレスかたまって
くる。

金堀

情報は、みんなに伝えてほしい！！
(第17条)

ケータイを持つ、ている人だけに情報
があたふたはイヤです。ケータイを持
ていなくても、情報を受け取る権利
があると思います。どくして同じの子
はその情報を知、ていふに、自分
だけ1週間も情報がくるのが
遅いんですか？ それも、とても大手
な情報です。ケータイを持つ、ている人だ
け、というのは不平等だと思います。

吉田 侑生

声にしていい言葉。
心にしまっておくべき言葉。

感じた事を本当の言葉に
するのは私達に
たくされています。
だからこそ、全ての思いを
声にしていいとは
限りません。
心にしまっておくべき
言葉もあります。 中村真綾



第12条「住くらだ、と言いたいのとはある」

私は、上の人が決めた事は絶対なのか？ときがきたらそれはちがうんじやないのかなと思います。

いやな事はいやだとは、きり言っ事は大切。

でも、自分の中ではみんなの事も大切。どちらも大切だと思います。 中村し



私が大切にしたい権利は
第32条「大人のために働くなんて」です。

理由 (32条が働く場合)

親が病気やケガで子どもが働くのは、しつたかないけど単に働かせるのはダメだと思ふ。大人が働いて、子どもを育てなくてはならぬのに、その事を放棄するのはきりと言って、人としてダメだと思ふす!! どのあたりがダメだと言うと、実の子どもを物としてあつかっているように見えるからです!!! 山口



私は 第16条 秘密を知られたくないを大事にしてほしいと考えています。

一人一人が知られたくないと思っいることがあるから簡単に広めてはいいなと思います。

大威

命を大切に
してほしい。

子ども会議のメンバーお疲れ様でした。
1.由 2日でしたけど、楽しかったです。
お世話になりました。
ありがとうございました。

中学校の友達とは、一緒にしゃべれる事ができますけど、みんなが、わっかになつてしまうと
暗からでは、行けないとおも、こいます。
みんなのところに入れない時は、どうすればいいとおもいますか。
ほんとは、みんなと、しゃべるのが、ちよとだけにかかると
みんなとしゃべれるには、どうしたらいいとおも。

三浦

僕らは、この地球に生れた
たった一つの命なのだから。
それに、生れたくても
生れられなかった命も
あるのだから。



橋本

※第0条は、子どもの権利条約の
条文のことです

2012年4月に始めた子ども委員会では、大人のファシリテーターとともに、日頃の自分たちの思い、意見、訴えを出し合い、人の話を聴き、話し合いを重ねてきました。それらの思いを、日本が批准している子どもの権利条約や川崎市の子どもの権利条例などの条文に重ね合わせることで、これから津市が制定しようとしている子どもの権利条例の大切な柱にしていきたいと思います。

子ども委員会の取り組みの一環で、広げ深める目的で取り組んだ夏の合宿には、継続的ではありませんが多くの中学生に参加して頂きました。このページには、その一部の子どもの声を紹介させていただきます。

犯罪の差別や無差別社会が安心して生活できる社会だと思います。
でも、犯罪や差別は時になくならないと思うので、やむを得ず努力をしたいと思います。

嶋田 紗世奈

僕は
安心して生活できる社会は社会保障で
加え調整した社会だと思ってる

大山 秋人

安心して生活できる社会... 環境を良くする
自分を大切にしてくれる大人や社会。子どもは大人や
社会?... 大人は自分の親、社会は特に
わかりたい
大人や学校の先生に伝える時に押しつけてきたらダメか?
ダメでいい感じ? ... 話を聞いてほしい
受け入れてほしい
他に大人や学校の先生に伝えたこと... もっと
子供の声を大切にしたい

梶谷 有紗

安心して生活できる社会
犯罪の無い社会
学校の先生は、先生としての役割をはたしている
だけだと思ってる。どんなふうに押しつけてきたら
ダメにさせようとは思っていません

梶谷 光洋